

## 〈 セミナーのご案内 〉

● 配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

高等教育活性化シリーズ 281 (通算 611 回)

2014 年 12 月 12 日 (金)

学生・教員交流のグローバル化——

# 海外分校・拠点の最新動向と新展開

高等教育活性化シリーズ 282 (通算 612 回)

2014 年 12 月 17 日 (水)

アカデミックカレンダーの再構築——

# 4 学期制導入の本格展開とその実際

学生・教員交流のグローバル化——

## 海外分校・拠点の最新動向と新展開

～関連法令／教育・研究支援／設置・運営の実際～

- ※ 大学海外事業・活動に係る関連法令と運用／海外分校、ダブルディグリー、国際連携課程 (JD)
- ※ [桜美林大] 学園アメリカ財団 (OGFA) を拠点とした展開／学生・教員交流の活性化
- ※ [立命館 APU] 海外拠点展開の実際／80 カ国・地域との交流／現地同窓会の育成／企業協働
- ※ [京大] 国際戦略「2 x by 2020」の提言と海外展開／大学院・研究所による 50 拠点の運営

### ● 講師陣 ●

北岡 龍也 氏 / 文部科学省 高等教育局 大学振興課 課長補佐  
畑山 浩昭 氏 / 桜美林大学 学長特別補佐・国際センター長  
村上 健 氏 / 立命館アジア太平洋大学 事務局長  
稲葉 カヨ 氏 / (国) 京都大学 理事・副学長 (国際担当)

2014 年 12 月 12 日 (金) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

アカデミックカレンダーの再構築——

# 4 学期制導入の本格展開とその実際

～授業期間の具体設計／2 単位科目の授業時間／学生・教員の国際交流の強化～

- ※ 学事暦等制度の弾力化／学外学修 (ギャップイヤー) プログラム／検討会議報告を踏まえて
- ※ [早稲田大] 導入の背景と目的／セメスター制と 4 学期制の併存と運用／グローバル化戦略
- ※ [福山市立大] 開学 4 年目の運用と実際／集中学習・短期留学プログラム／学修効果の検証
- ※ 学期制のデザインと教学ガバナンスの深化／期間・授業時間の設計／1 単位のクレジット化

### ● 講師陣 ●

河本 達毅 氏 / 文部科学省 高等教育局 大学振興課 大学改革推進室 専門職  
田中 愛治 氏 / 早稲田大学 理事 (教務総括) 政治経済学術院 教授  
稲垣 卓 氏 / (公) 福山市立大学 学長  
清水 一彦 氏 / (国) 筑波大学 理事 副学長 (学生担当)

2014 年 12 月 17 日 (水) 剛堂会館 (明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町)



[ 参加要領 ]

日時： ■高等教育活性化シリーズ 281 海外分校・拠点の最新動向と新展開  
2014年12月12日(金) 10:00~16:00

会場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町) 千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL 03-3230-2833  
(東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」A1 出口より徒歩3分)

日時： ■高等教育活性化シリーズ 282 4学期制導入の本格展開とその実際  
2014年12月17日(水) 10:00~16:50

会場：剛堂会館(明治薬科大学) 会議室 (東京・麹町) 千代田区紀尾井町 3-27 TEL 03-3234-7362  
(東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩4分、またはJR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口より徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声 CD 送付)
高等教育活性化シリーズ 281 海外分校・拠点の最新動向と新展開	42,000 円 (消費税込)	43,000 円(消費税、送料込)
高等教育活性化シリーズ 282 4学期制導入の本格展開とその実際	42,000 円 (消費税込)	43,000 円(消費税、送料込)

※ メディア参加とは、開催当日に会場に来られない方の参加形式です。

※ 開催後に当日配布資料及び音声CDをご送付します。

※ なお、当日参加とともに、音声CDをご希望の方には、特別割引いたします。

※ 参加費の払い戻しは致しません。申込者のご都合が悪いときには、代理の方がご出席ください。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAX または Email にてご送付ください。

※ 受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767

三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 \*郵便振替：00110-8-81660

口座名 (株)地域科学研究会

(ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒<http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj/> E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)

☆ ご案内をパンフからメールにシフトしております。ご登録くださいませ。

お申込み・お問合せ



地域科学研究会  
高等教育情報センター

東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2014年 月 日

- 高等教育活性化シリーズ 281  
**海外分校・拠点の最新動向と新展開**
- 高等教育活性化シリーズ 282  
**4学期制導入の本格展開とその実際**

(□に✓印を入れてください)

当日参加  メディア参加

当日参加  メディア参加

支払方法  当日払い  銀行振込  郵便振替

必要書類  請求書  見積書

勤務先

〒

連絡部課・担当者名

所在地

メールアドレス

TEL

FAX

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 } 10:40	<p>□ 大学海外事業・活動に係る関連法令と運用 ～海外分校／ダブルディグリー／国際連携課程（JD）～</p> <p style="text-align: right;">文部科学省 北岡 龍也</p> <p style="text-align: center;">（講義項目は、11月26日までにKKJ HPにて公開）</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
10:50 } 12:10	<p>□ [桜美林大] 現地法人設立による新たな海外展開の取り組み ～桜美林学園アメリカ財団（OGFA）を拠点とした国際交流～</p> <p style="text-align: right;">桜美林大学 畑山 浩昭</p> <p>1. 現地法人設立までの経緯</p> <p>(1) 国際交流事業の方法（短期、長期、語学留学、交換協定、委託など） (2) 国際交流の問題点（アウトバウンド・インバウンド） (3) 留学の考え方に関する転換 (4) 交流方法の変更</p> <p>2. 現地法人の設立</p> <p>(1) 目的や目標の設定 (2) 現地法人設立のための準備 (3) 設立から現在までの主な推移 (4) 現在の法人組織</p> <p>3. 現地法人を拠点とした取組</p> <p>(1) 北米と日本の架け橋になる法人として (2) 教育研究事業 (3) その他の交流事業 (4) 今後の展望と計画</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
13:10 } 14:30	<p>□ [立命館APU] 大学のグローバル化を支える海外拠点展開 ～海外の留学生募集拠点／現地同窓会の育成と協働～</p> <p style="text-align: right;">立命館アジア太平洋大学 村上 健</p> <p>1. APUの多様性の基となる国際学生</p> <p>(1) 海外の高校との連携 (2) 国際学生募集の実際 (3) 海外拠点</p> <p>2. 世界に広がる卒業生ネットワーク</p> <p>(1) 世界の20ヵ所に校友会チャプター (2) 世界で活躍する卒業生たち</p> <p>3. 国際化の新しい展開</p> <p>(1) 海外拠点の新展開 (2) 卒業生との協働による教育展開</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>
14:40 } 16:00	<p>□ [京大] 国際戦略「2x by 2020の提言」と海外拠点の展開 ～大学院・研究所による50拠点の機能と運営～</p> <p style="text-align: right;">京都大学 稲葉 カヨ</p> <p>1. 京都大学の概要</p> <p>(1) 理念と自由の学風 (2) 歴史 (3) 組織と構成員 (4) 研究力</p> <p>2. 京都大学の国際戦略「2x by 2020」</p> <p>(1) 概要 (2) 研究 (3) 教育 (4) 国際貢献と社会連携 (5) 重点施策</p> <p>3. 京都大学の海外施設</p> <p>(1) 拠点と研究ステーション (2) 研究ステーションの紹介 (3) 拠点の役割と意義 (4) ASEAN拠点とネットワーク (5) ヨーロッパ拠点とシンポジウム (6) 今後の展開</p> <p style="text-align: right;">〈質疑応答〉</p>

時間	講 義 項 目
10 : 00 } 11 : 00	<p>□ 学事暦等制度の弾力化と学外学修プログラムの推進 ～「学事暦の多様化とギャップタームに関する検討会議」 報告を踏まえ～ 文部科学省 河本 達毅</p> <p>1. 大学教育の質的転換 (1) 大学の転換 (2) 授業の転換 (3) 学生の転換</p> <p>2. なぜ、今「ギャップイヤー」なのか (1) 各種提言等 (2) 制度改正の経緯 (3) 動き始めた「学事暦」</p> <p>3. 長期学外学修プログラムの推進 (1) 「検討会議」とその後 (2) 新たな大学改革サイクル (3) 今後の方向性 (質疑応答)</p>
11 : 10 } 12 : 40	<p>□ [早稲田大] 早稲田大学における 4 学期制 (Quarter 制) ～ その導入の背景と目的・運用 ～ 早稲田大学 田中 愛治</p> <p>1. 4 学期制導入の背景と目的 (1) 在学生のサマー・スクールへの短期留学 (2) 海外の学生が早稲田で学ぶ (サマー・スクール等への参加) (3) 早稲田から留学した学生の復帰をスムーズにする (4) 海外大学の教員が早稲田で教える ー 真のグローバル化を目指してー</p> <p>2. セメスター制と 4 学期制の併存は可能か (1) セメスター科目を提供し続ける必要性 (2) 学生はどのように履修すれば良いのか (3) 教員・職員の負担は増えないのか (4) 今後の展望 (ボランティア活動、インターンシップ等)</p> <p>3. Waseda Vision 150 が目ざす改革 (スーパーグローバル大学等支援事業にも合致) (1) Global Education Center の展開 (2) コース・ナンバーリングとコード・シェア (3) 海外の大学と自由に行き来ができる環境 (4) 学生がグローバルな視野を持って学べる仕組み (質疑応答)</p>
13 : 40 } 15 : 10	<p>□ [福山市立大] 開学 4 年目の 4 学期制の運用と実際 ～ 集中的な学習や短期留学プログラムによる学修効果 ～ 福山市立大学 稲垣 卓</p> <p>1. 4 学期制導入の経緯 (1) 新大学設置準備のなかで (2) セメスター制をめぐる議論 (3) 教育実習の実施をめぐる (4) 4 学期制のメリットとデメリット</p> <p>2. 開学後の 4 学期制 (1) 4 学期制のもとでの学年歴 (2) 学生から見た 4 学期制 (3) 教員から見た 4 学期 (4) 具体的な学修効果等の事例</p> <p>3. 4 学期制による学修効果の検証 (1) 2 学期制の学修と 4 学期制の学修 (2) 検証の指標をめぐる (3) 4 学期制大学の連携 (4) まとめ (質疑応答)</p>
15 : 20 } 16 : 50	<p>□ 学期制のデザインと教学運営の進化 ～ 期間と授業時間の設計 / 半期 3 モジュールのメリット ～ 筑波大学 清水 一彦</p> <p>1. 新構想大学はなぜ 3 学期制を改革したのか (1) 浸透しなかった学期完結型 (2) 学生・教員の他大学との交流に支障 (3) 実質化しなかった 3 学期の授業 (4) 改革までに長い道のり</p> <p>2. 画期的な 2 学期 6 モジュール制への再構築 (1) 3 つの視点と 4 つの基本方針 (2) 3 ポリシーの徹底とカリキュラムの精選 (3) 単位制度の趣旨の徹底化 (4) 部局の特性尊重と 2 種類のモジュール運営</p> <p>3. 学期制のデザインと教学ガバナンスの深化 (1) 学期制と単位制度とは密接な関係 (2) 単位制度から生まれた「学修」概念 (3) 学期制より 1 単位の実質化 (クレジット化) が重要 (4) 学生も教職員も「学び続ける」教学ガバナンス (質疑応答)</p>